資料4

千葉豪雨等に関する補足説明（被害要因等）

令和8年10月22日

水災害調査・対策検討委員会（第2回）

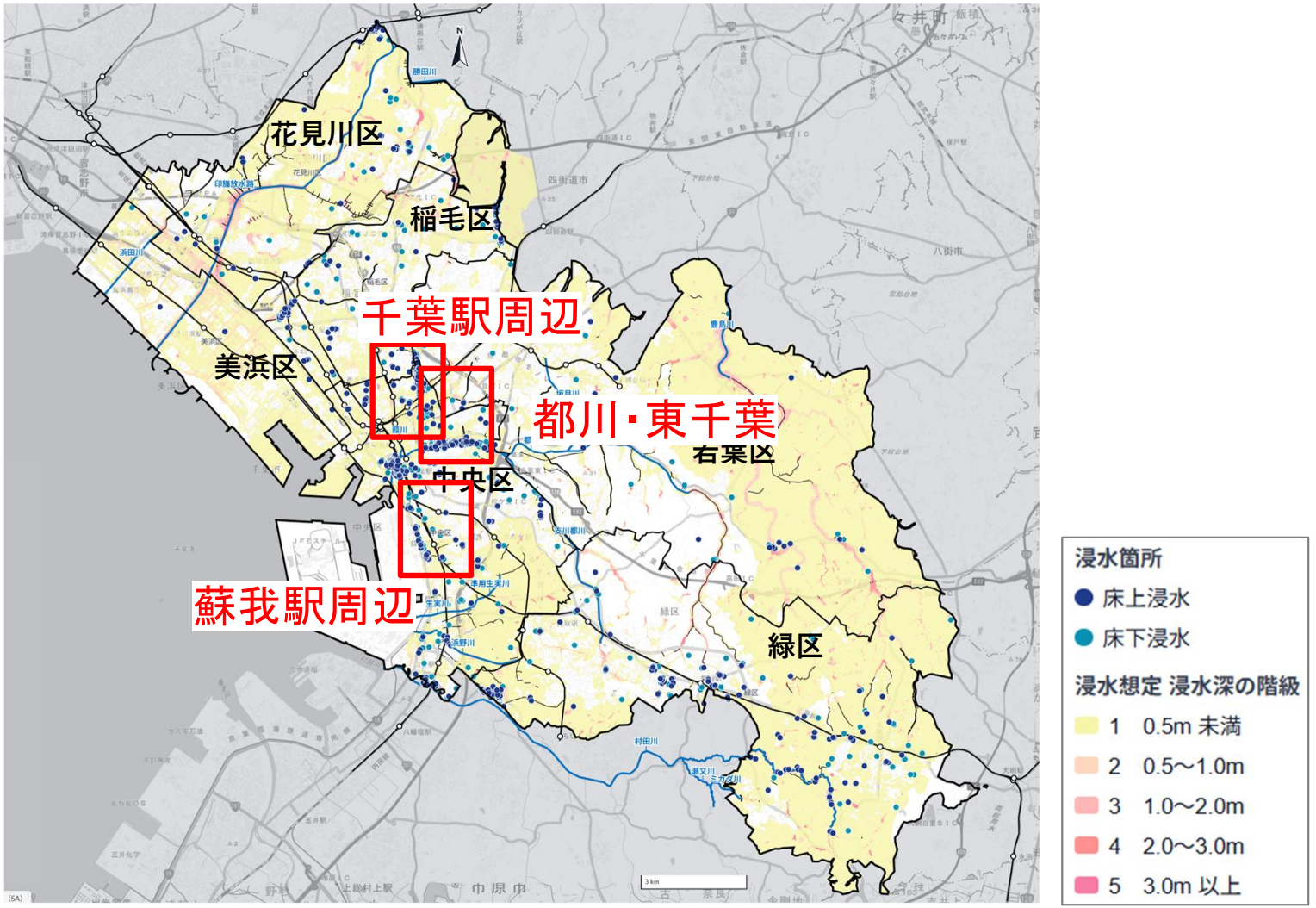
国土交通省　水管理・国土保全局

【千葉豪雨に関する補足説明】 浸水被害の分析（千葉駅周辺）

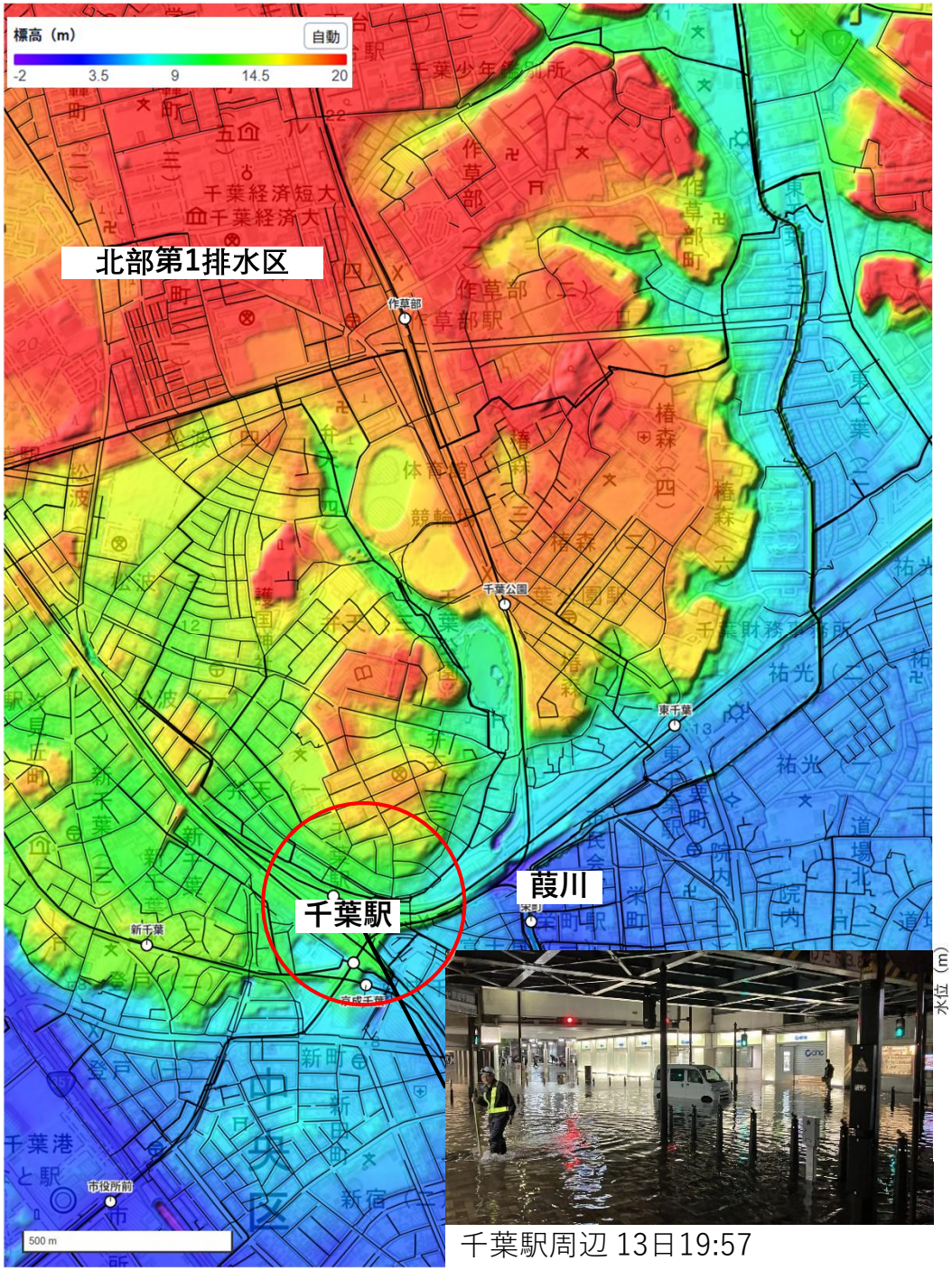
浸水家屋数（令和8年10月19日現在速報値）

区分	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	市合計
床上浸水	1,018	202	230	90	309	12	1,861
床下浸水	571	68	164	89	237	37	1,166
合計	1,589	270	394	179	546	49	3,027

出典：令和8年8月千葉豪雨（第35報）

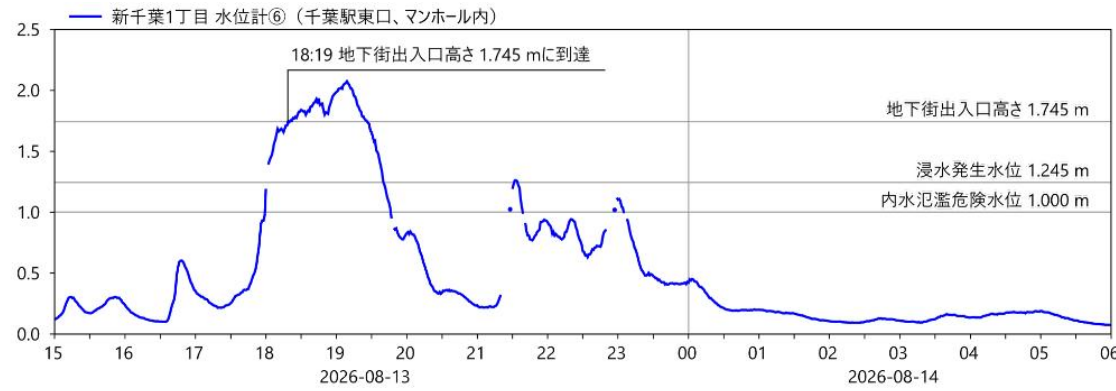


【千葉豪雨に関する補足説明】 浸水被害の分析（千葉駅周辺）



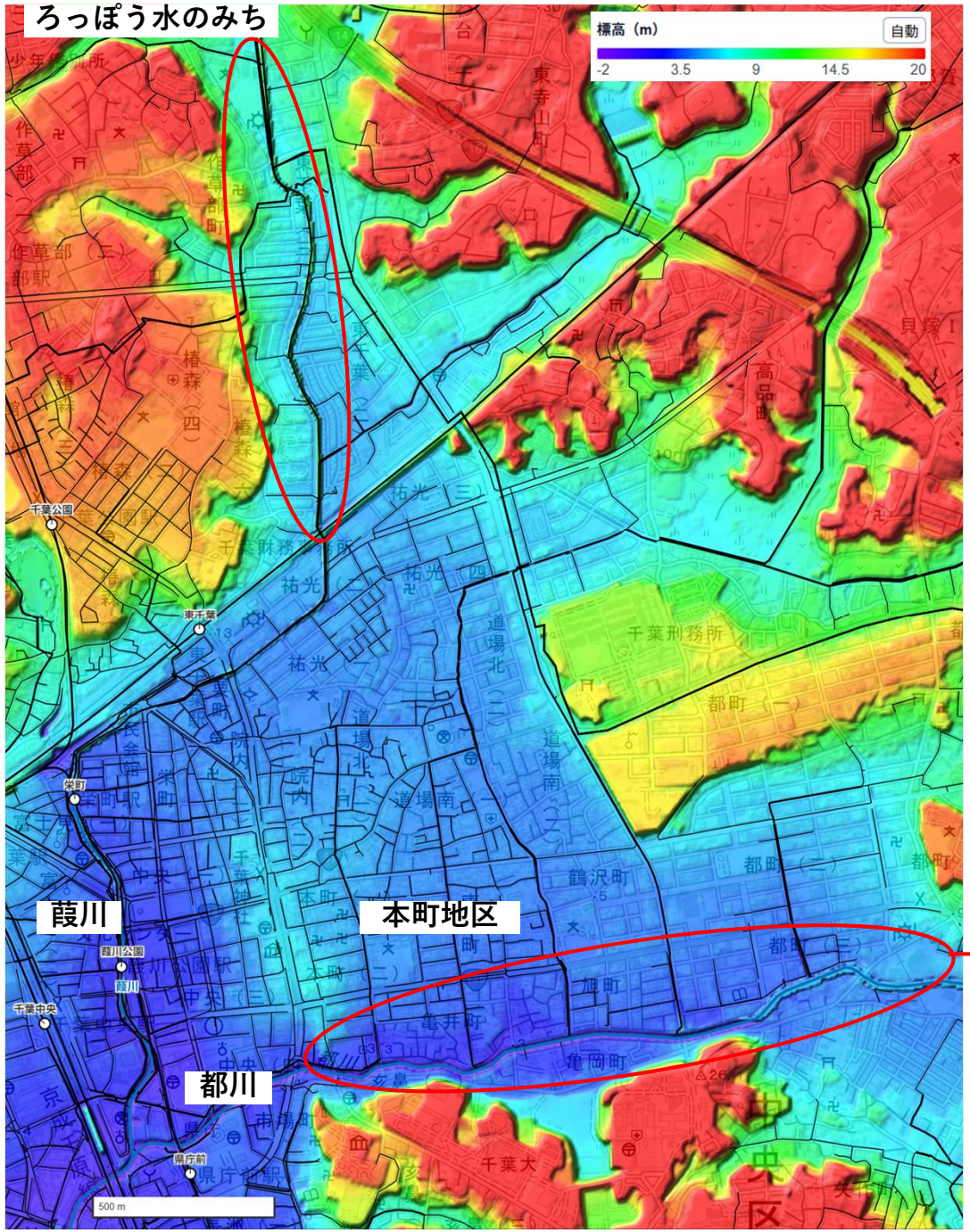
千葉駅周辺 13日19:57

- 千葉駅は総武線（各駅・快速）、内房線、外房線、成田線、総武本線、京成千葉、千葉モノレールの7路線が集まる市内最大の交通結節点である。
- 1 日の乗車人員は約 13 万人に及ぶ（JR 約10.5万人、京成 約1.4万人・モノレール 約1.1万人）
- バス路線は小湊鐵道8、京成電鉄38、日東交通1、九十九里鐵道1、あすか交通1の合計49路線
- 千葉駅周辺の浸水被害は周辺より標高の低い箇所で発生している。
- 千葉駅付近の地形は東側（葭川）に傾斜がある。
- 18時19分から19時26分までの水位は、地下のショッピングモール出入口の高さを超えた。
  （地下に流入したと推定）



18時19分に地下街出入口高さに到達

【千葉豪雨に関する補足説明】 浸水被害の特徴(都川・東千葉)



【東千葉地域】

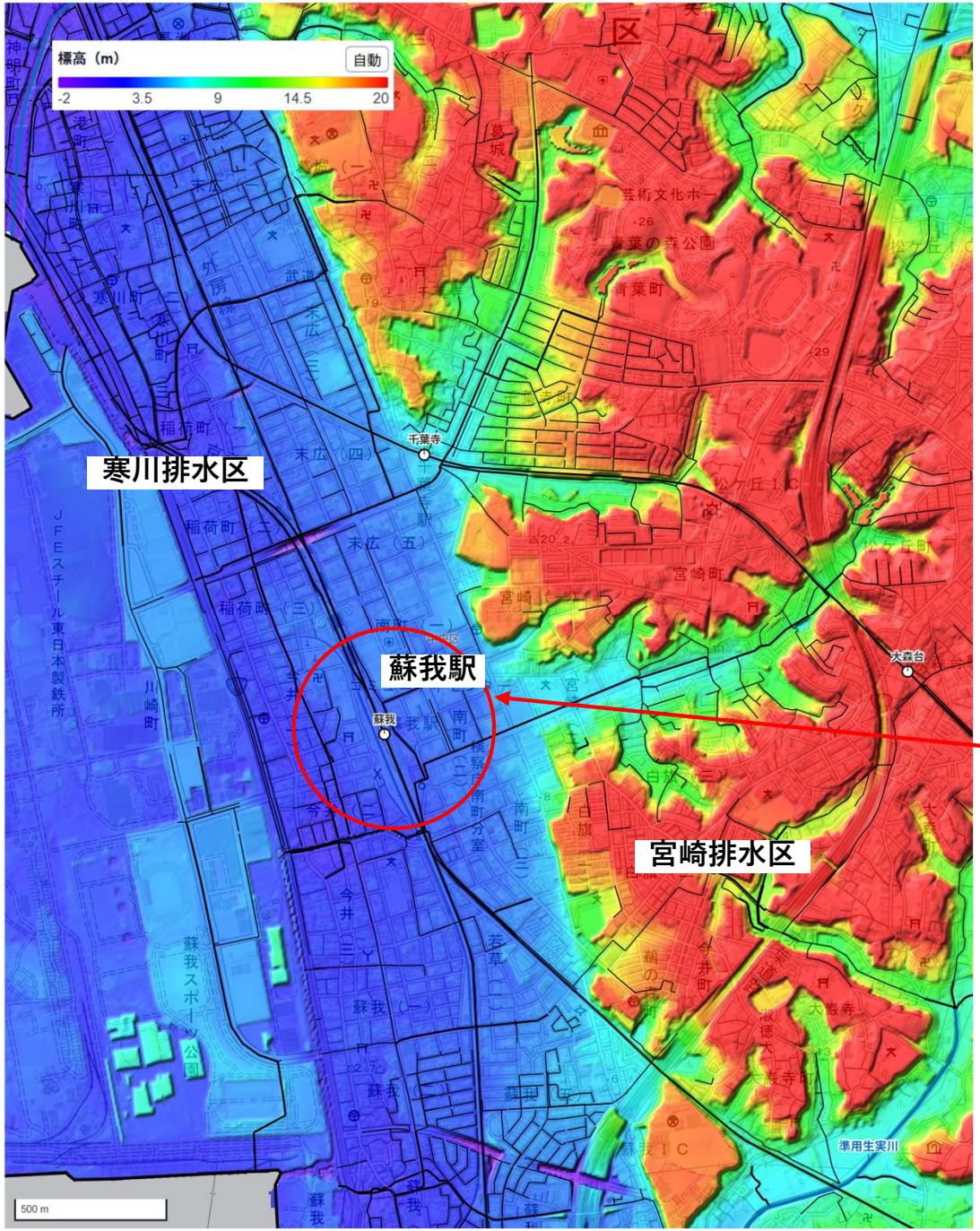
- 「ろっぽう水のみち（千葉市が管理する都市下水路）」周辺の浸水被害は水路周辺の低標高部で発生している。
- 計画規模を大きく超える降雨量のため、水路の水位が上昇したことにより、浸水被害が発生したことが想定される。

【都川周辺地域】

- 都川周辺の浸水被害は河川沿いの低標高部で発生している。
- 計画規模を大きく超える降雨量により、放流先となる都川の水位が上昇し、内水が排水できず、河川沿いの地区で浸水したと想定される。



【千葉豪雨に関する補足説明】 浸水被害の分析（蘇我駅周辺）



- 蘇我駅は京葉線・内房線の起終点で外房線との結節点である。1 日の乗車人員は約 3.2 万人である。
- バス路線は小湊鐵道11、京成電鉄3、日東交通1の合計15路線
- 千葉豪雨に伴う帰宅困難者は約 5,000 人発生。
- 蘇我駅周辺の浸水被害は周辺より標高の低い箇所で発生している。
- 蘇我駅東口・西口は窪地状の低地であり、上流の急な谷津から平坦な低地へ雨水が集まる地形である。

帰宅困難者（構内）

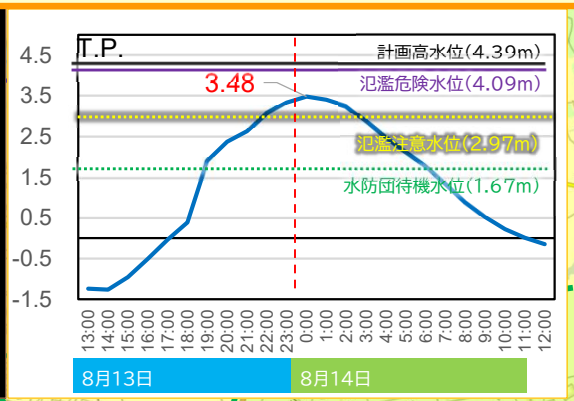


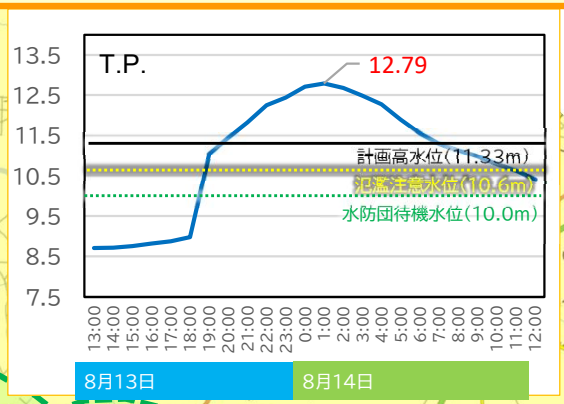
帰宅困難者（構内）



【千葉豪雨に関する補足説明】 都川の水位と周辺の下水道水位の比較

非公表データ





都川水系流域

下水道水位　都町3丁目

都川　矢作観測所

都川　大草観測所

都川



葭川流域

千葉公園

都川多目的遊水地



千葉大学
医学部
附属病院

葭川

千葉県庁

千葉駅

千葉中央駅

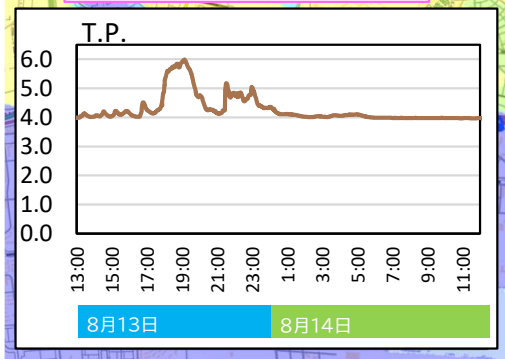
本千葉駅

千葉市役所

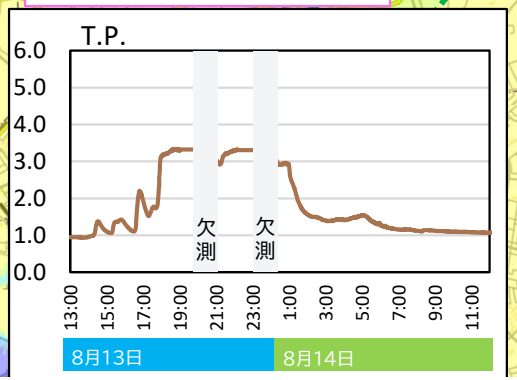
蘇我駅

葭川排水機場

下水道水位　新千葉1丁目



下水道水位　南町2丁目

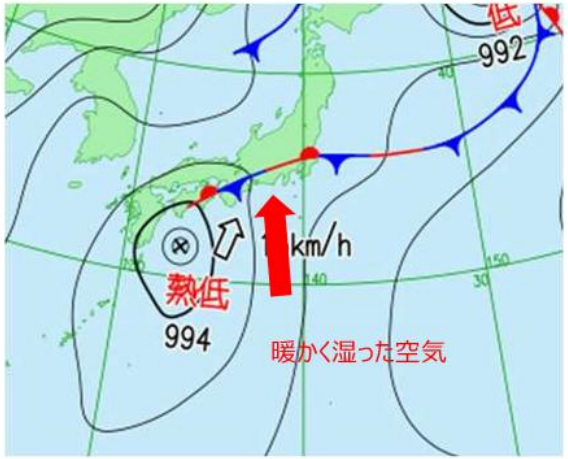


- 下水道吐口高さ(下端:T.P. 2.49m 上端:T.P.3.09m)
- 河川水位も下水道管内水位も、18時頃急激に上昇。
- 都川下流側の都町3丁目付近では、下水道管内水位は約T.P.3.5mに到達し、19時頃に溢水し始めたと推測できる。この近傍の都川矢作観測所では、24時頃に下水道とほぼ同じ水位に到達し、これ以降の浸水位は河川水位の影響も加わったと考えられる。
- 都川上流の大草観測所の水位は、19時頃以降に計画高水位を大きく超えており、河川からの氾濫があったと考えられる。
- 以上のことから、都川の上流側と下流側では、その氾濫の要因が異なるものであったと考えられる。

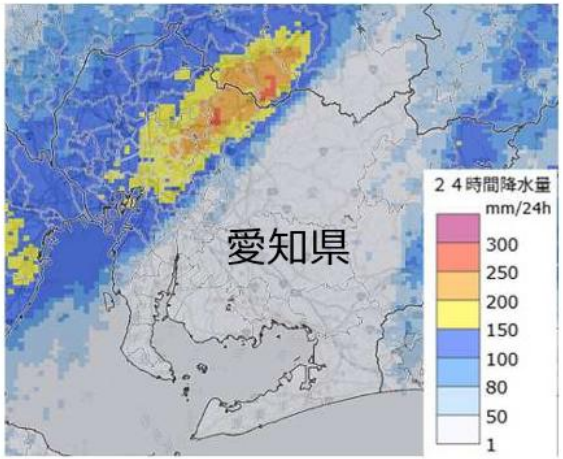
令和8年9月8日からの大雨の概要　（令和8年10月20日時点）

- 9月8日は、四国の南にある台風第24号から変わった熱帯低気圧の東側の暖かく湿った空気が本州の南岸付近に停滞した前線に向かって流れ込み、前線の活動が活発になった。愛知県では8日夕方に線状降水帯が発生した。
- 8日16時から18時頃にかけて尾張東部を中心に猛烈な雨が降り、名古屋では16時53分までの1時間に104.5ミリの降水量を観測し1890年の観測開始からの1位を更新した。また、解析雨量では、尾張東部の多いところでは、8日18時までの3時間降水量が約250ミリとなった。
- この大雨により、尾張西部、尾張東部の一部の市町にレベル4大雨危険警報、レベル4土砂災害危険警報を発表した。河川に対しては、矢田川の瀬古基準観測所（名古屋市守山区）で氾濫発生水位に達したため庄内川レベル5氾濫特別警報を発表したほか、愛知県天白川水系天白川レベル4氾濫危険警報などを発表した。

気象の状況等



地上天気図
9月8日18時



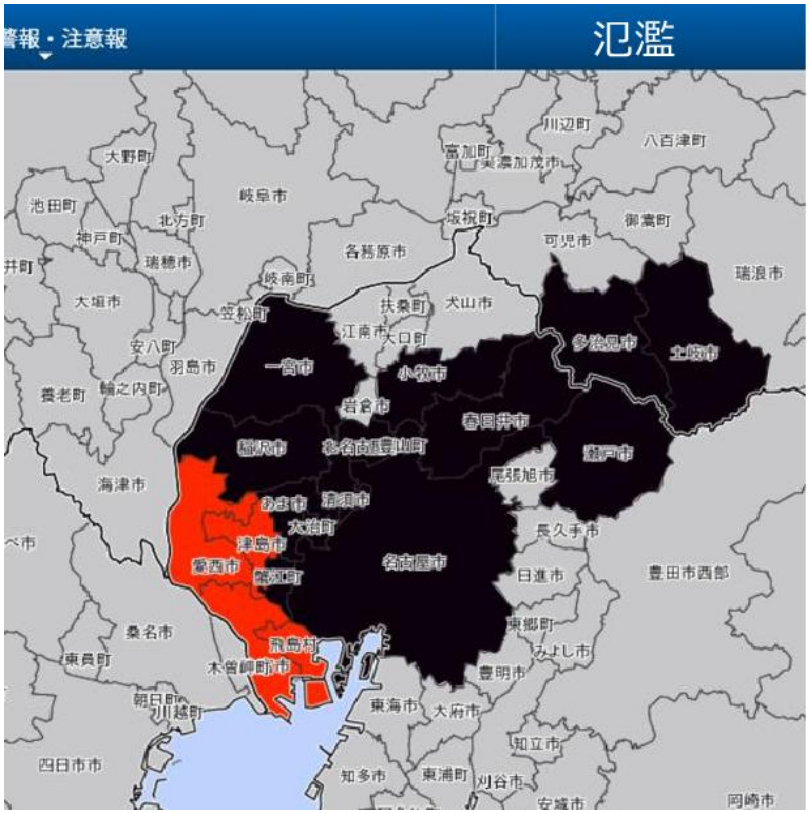
解析雨量による9月8日24時
までの24時間降水量

名古屋市における日最大１時間降水量
（1890年の観測開始からの1位を更新）

日最大１時間降水量

地点名	更新した値		前日までの１位の値		統計開始年
	降水量(mm)	起日	降水量(mm)	年月日	
名古屋	104.5	8日	97.0	2000年9月11日	1890年

レベル5氾濫特別警報の発表



気象庁WEBページより

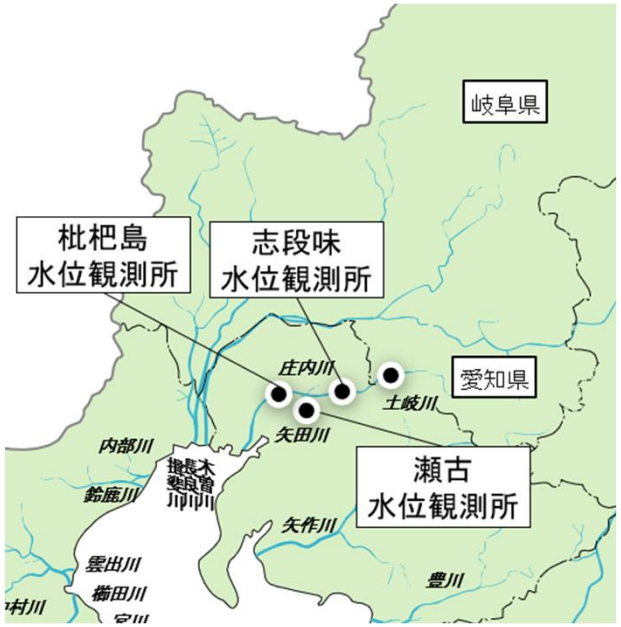
令和8年9月8日からの大雨に伴う河川の対応状況 （令和8年10月20日時点）

- 庄内川水系矢田川の瀬古水位観測所においては計画高水位を超過し、氾濫発生水位に到達したため、レベル5氾濫特別警報/氾濫発生情報を発表、東海豪雨を超える水位を記録した。
- 庄内川本川においても、志段味水位観測所において、氾濫危険水位を超過し、枇杷島水位観測所においては水防団出動水位を超過した。

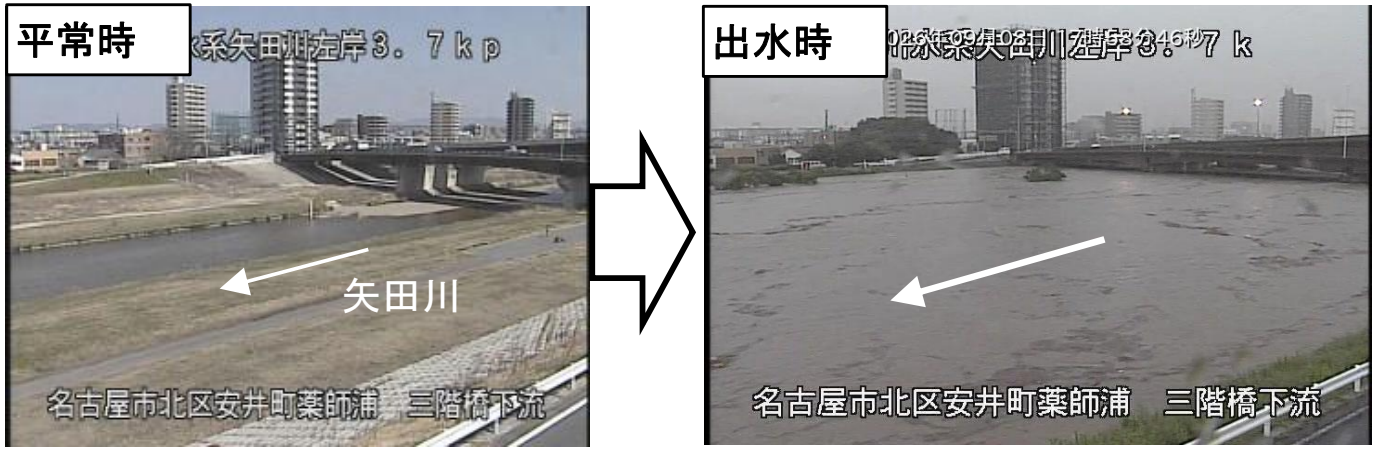
【水位状況】 （単位：m）

水系名	河川名	観測所名	今回 最高水位	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	出動水位	避難 判断水位	氾濫 危険水位	計画 高水位	
庄内川	庄内川	志段味	2026/09/08 18:30 6.44	3.40	4.60	5.20	5.90	6.40	7.50	-
		枇杷島	2026/09/08 20:30 7.99	4.60	5.60	6.30	8.50	8.90	9.08	-
	矢田川	瀬古	2026/09/08 18:10 6.35	2.80	3.30	5.00	5.20	5.50	5.71	6.11（氾濫発生水位）

ピーク時 6.35m



■庄内川水系　矢田川　瀬古水位観測所



2026.09.08 18:10

令和8年9月8日からの大雨の被害状況 （令和8年10月20日時点）

■被災状況（人的被害等）

負傷者	軽傷　38名	（令和8年9月18日　愛知県被害情報　第11報）
住家被害	一部損壊 10戸 床上浸水 396戸　床下浸水 605戸	（令和8年9月18日　愛知県被害情報　第11報）

■被災状況（インフラ被害）

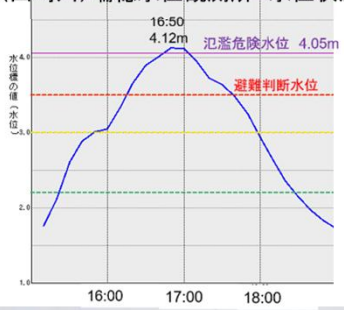
道路	愛知県：損壊２か所 名古屋市：道路冠水196件、道路陥没24件、道路損壊　132件	（令和8年9月18日 愛知県被害情報　第11報） （令和8年10月5日　名古屋市情報）
河川	国：河岸侵食１件、護岸損傷１件 愛知県：護岸損壊９河川 名古屋市：堤防越水２箇所、施設被害　12箇所	（令和8年9月29日 庄内川（土岐川）出水状況について第2報） （令和8年9月18日 愛知県被害情報　第11報） （令和8年10月5日　名古屋市情報）
鉄道	JR及び名古屋鉄道において一部運休 名古屋市営地下鉄において、9/8全線運休	（令和8年9月11日　中部地方整備局災害対策本部報告第2報） （令和8年9月11日　中部地方整備局災害対策本部報告第2報）

令和8年9月8日からの大雨の被害状況 （令和8年10月20日時点）

- 令和8年9月8日（火）の大雨により、名古屋市管理河川（山崎川、植田川）において溢水被害が発生。
  （国及び愛知県管理河川における氾濫被害は無し）

山崎川水系山崎川
広路橋付近
浸水範囲：調査中

（山崎川）瑞穂水位観測所　水位状況





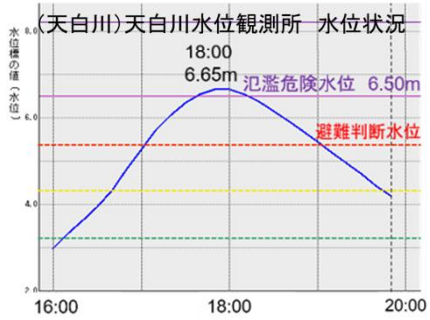


山崎川名鉄橋梁付近



天白川水系植田川
西山橋付近
浸水範囲：調査中

（天白川）天白川水位観測所　水位状況





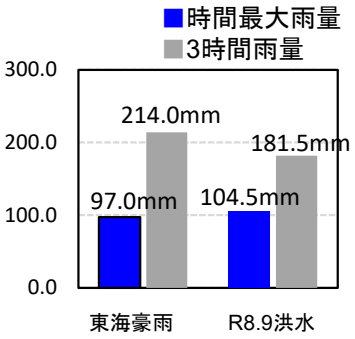


植田川河川施設損壊

令和8年9月8日からの大雨における整備効果 （令和8年10月20日時点）

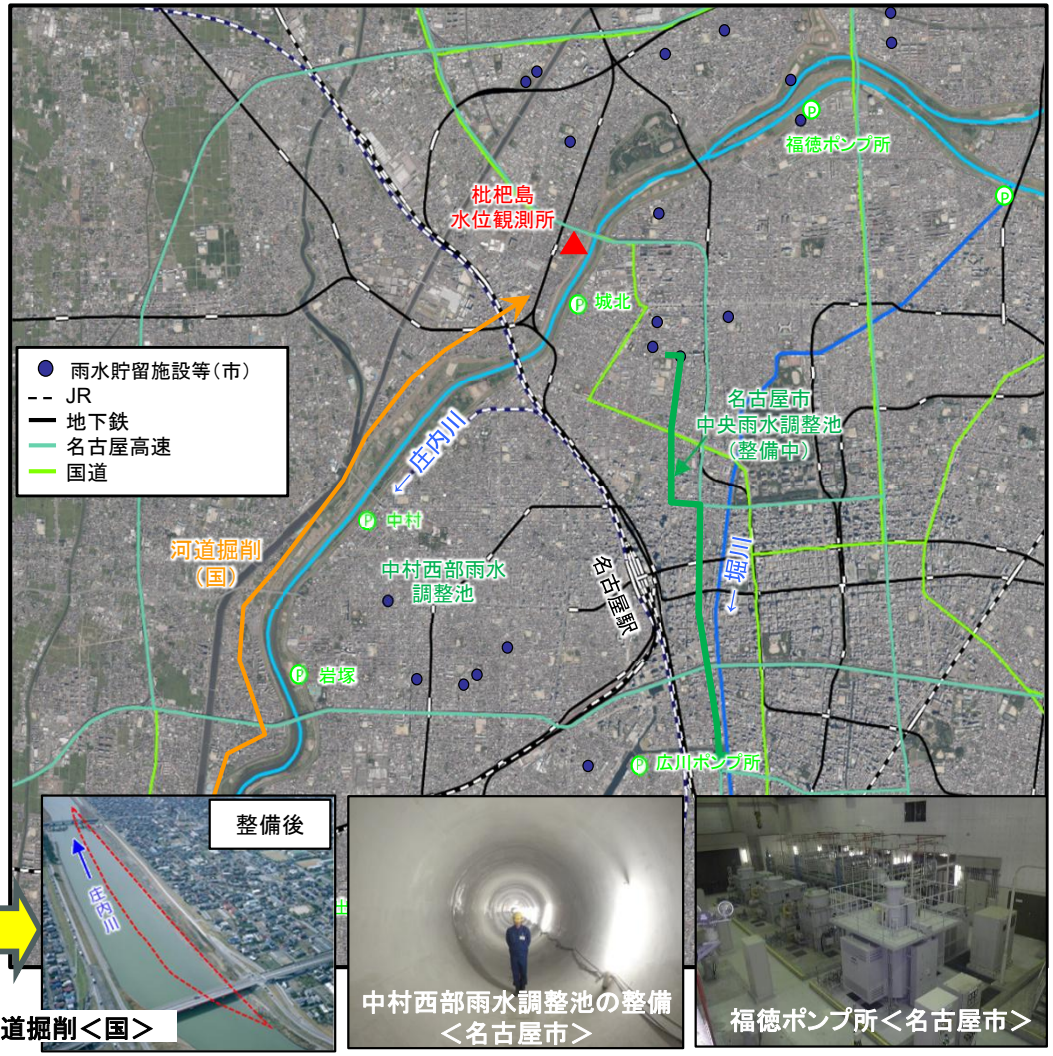
○令和8年9月8日からの大雨において、庄内川水系庄内川流域内の名古屋雨量観測所（愛知県名古屋市）においては、甚大な浸水被害をもたらした平成12年の東海豪雨を上回り、観測史上最大の104.5mm/hの最大時間降雨を記録。
○庄内川では、これまで国による河川整備や名古屋市による19箇所の雨水調整池の整備（東海豪雨以降）をはじめとする流出抑制対策の実施等、流域治水の取組を実施。
○今回の大雨において、枇杷島水位観測所で約1mの水位低減効果を発揮するなど庄内川からの浸水被害を防止するとともに、中村西部雨水調整池などの雨水貯留施設等も効果を発揮したことにより、名古屋市内の内水被害の低減に寄与。

■降雨量





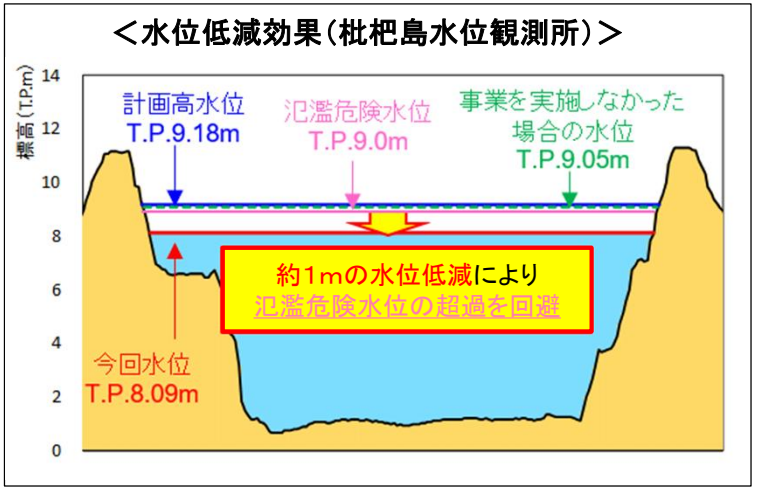
■名古屋市周辺における流域治水（国・市）の取組

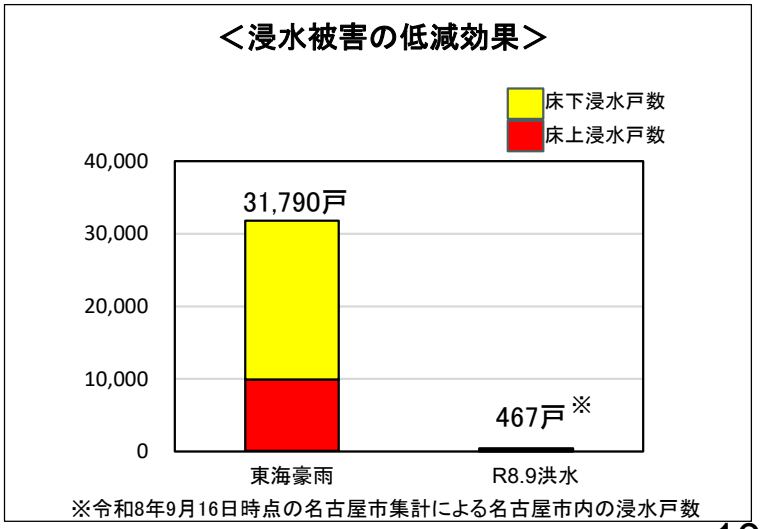




庄内川の河道掘削＜国＞

■整備効果





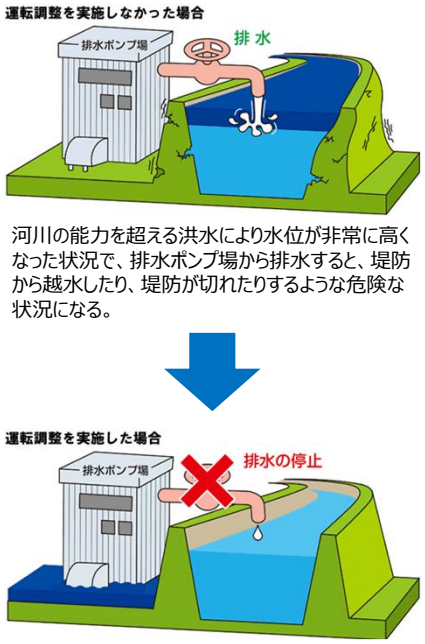
※令和8年9月16日時点の名古屋市集計による名古屋市内の浸水戸数

令和8年9月8日からの大雨における効果 （令和8年10月20日時点）

- 庄内川では、東海豪雨を踏まえ、甚大な被害の発生を回避するため、排水ポンプ場から庄内川への排水を停止する排水ポンプの運転調整の基準を設けている。
- 今回の出水では、これまでの河川整備による水位低下により排水ポンプの運転調整を回避するとともに、庄内川へ排水する都市排水路等の排水機能も改善されるなど、事前防災対策の効果が内水被害の軽減に寄与したものと考えられる。

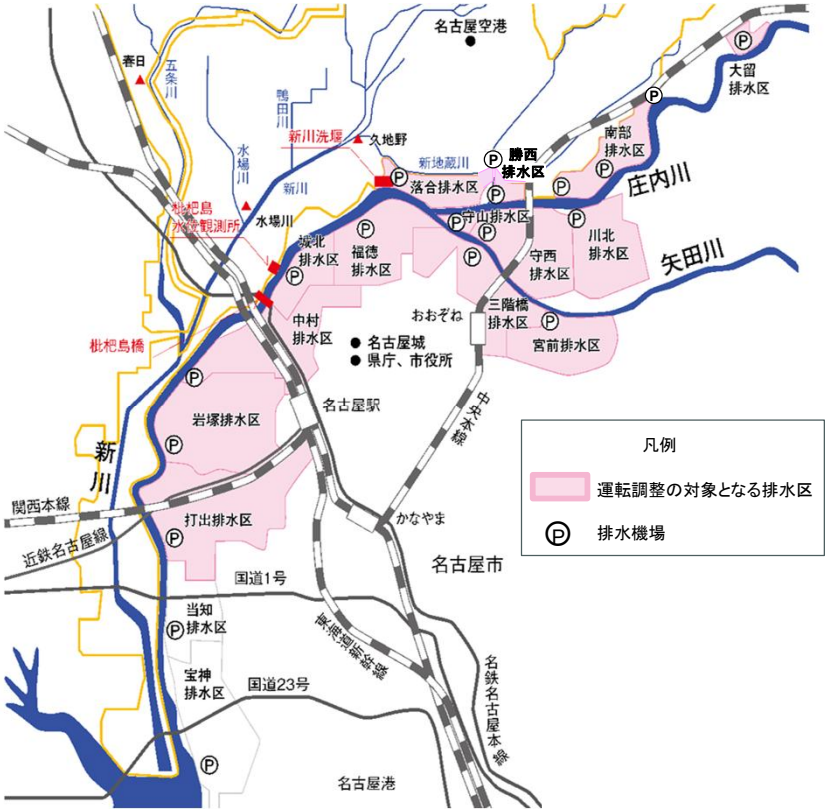
※排水ポンプ運転の停止は内水被害を拡大させるおそれがあることから、これまでに河川整備を進捗させて、排水ポン プ場の運転調整基準を見直し。

運転調整イメージ

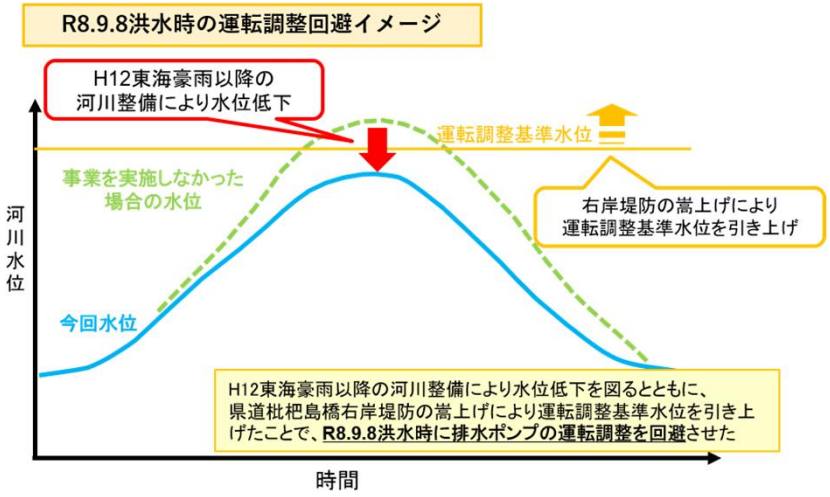


排水ポンプ運転調整の回避

・河川整備を進捗させたことで、
今回の出水では排水ポンプ場（17施設）の運転調整を回避



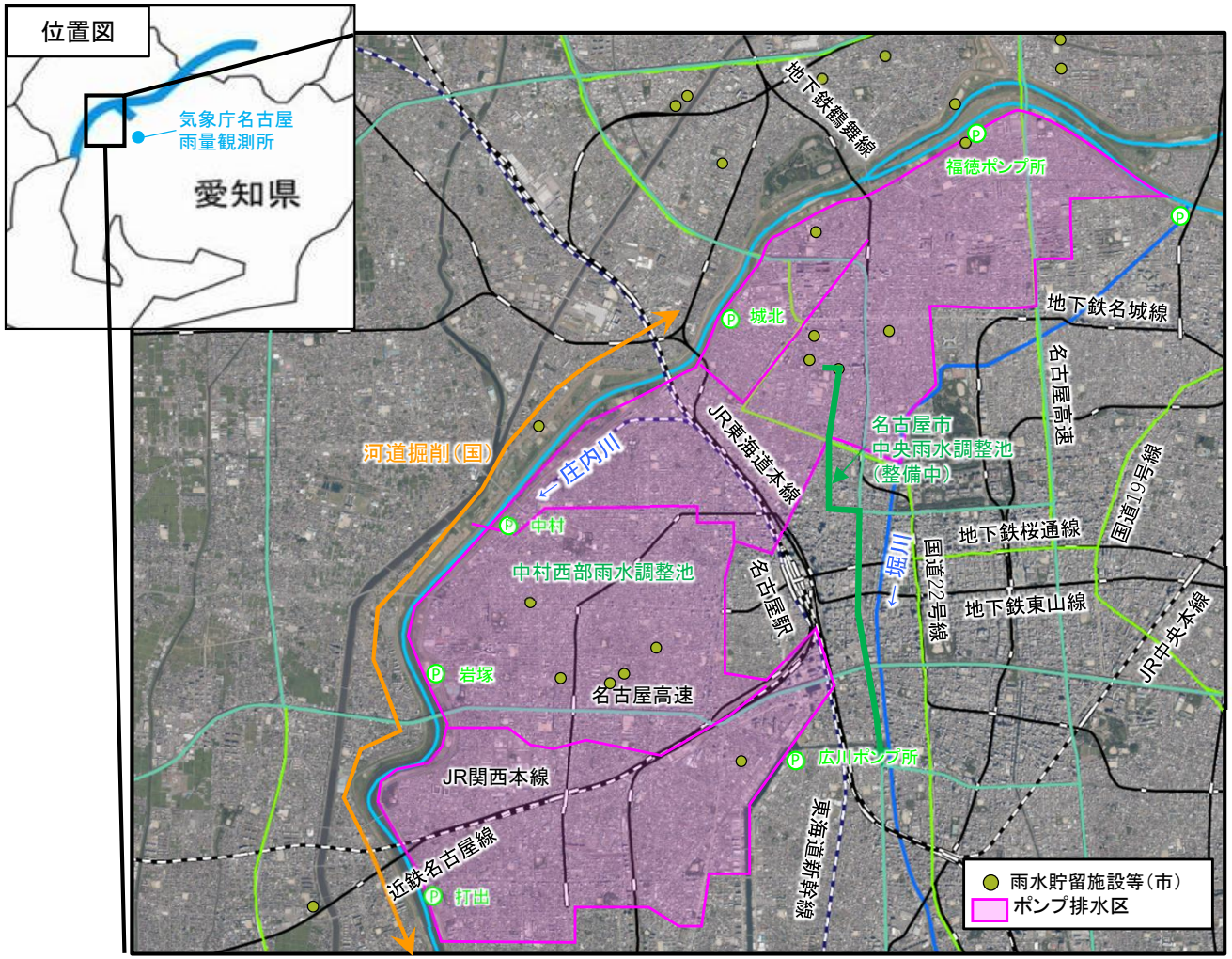
庄内川における排水ポンプ場位置図



令和8年9月8日からの大雨における効果　（令和8年10月20日時点）

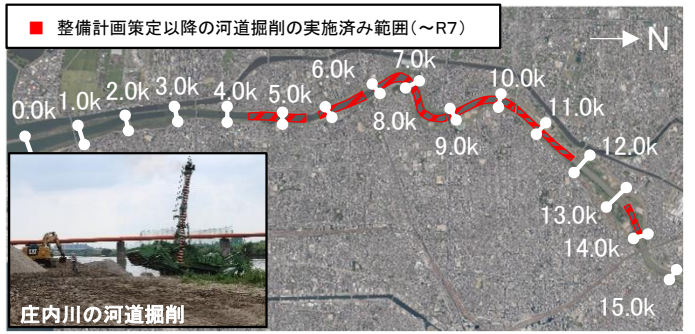
- 庄内川下流に位置する名古屋市は、これまで雨水調整池の整備をはじめとする流出抑制対策等の流域治水の取組を実施してきた。
- 9月8日からの大雨では、これらの対策が効果を発揮するとともに、国の河川整備による庄内川の水位低減によってより多くの排水が可能となる等、内水被害の低減に寄与した。

■名古屋市周辺における流域治水（国・市）の取組



※9月16日15時時点で、名古屋市集計による名古屋市内の浸水戸数

（国）庄内川の河道掘削



（市）中村西部雨水調整池

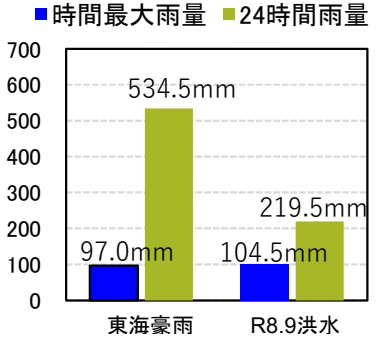


（市）福徳ポンプ所



■過年度の洪水との比較

＜24時間雨量の比較＞
（気象庁名古屋雨量観測所）



＜浸水戸数※の比較＞

